multilingual translation >
音声読み上げ・多言語翻訳は
「カタログポケット」で

みず・まち・自然　エンジョイ！米子

広報よなご

9

2023
September
No.222

◎特　集

まちの鼓動 高鳴る
～歩いて楽しい明日へ～

特集

まちの鼓動 高鳴る

～歩いて楽しい明日へ～

日本では、高度経済成長期以降広まった車中心の生活様式により、郊外化が進みました。特に地方の都市では中心市街地のにぎわいが失われ、公共交通機関の維持などが課題となっています。車社会化によって失われたまちのにぎわいを取り戻し、車に依存し過ぎない持続可能な暮らしを実現するために、世界中の都市で歩行者中心のまちづくりが進んでいます。米子でも、まちの玄関口である米子駅の南北をつなぐ自由通路「がいなロード」が開通し、「歩いて楽しいまち」に向けた取り組みが加速しています。

今回は、にぎわいを取り戻すために動き出すまちの様子と、米子市のめざす「歩いて楽しいまちづくり」を紹介します。歩いて楽しい明日に向け、まちの鼓動が高鳴ります。

がいなロード開通までの道のり

公共交通を生かしたまちづくりへの大きな一歩

米子駅周辺は線路によって南側と北側に分断され、両地区間の移動の円滑化が課題となっていました。また、南側には駅の出入口がなく、交通が北側に集中し、混雑が発生することもありました。

駅の利便性を高めるため、南側と北側をつなぐ自由通路や駅南広場を整備する計画は平成18年度に作成されました。当時は米子市の財政状況が厳しく、多額の費用が壁となって進展には時間を要しました。しかし、国や県への働きかけや、さまざまな関係者の熱意によって平成30年に事業は進捗（ちょく）。国の交付金や県の補助金を活用して整備は進み、米子駅南北自由通路「がいなロード」は令和5年7月29日に開通しました。

開通日は市内外から多くの人が訪れ、駅の南側と北側を往来しました。通路に設けられた窓からは、いつものまちの新しい景色が広がり、たくさんの人が眺めを楽しみました。山陰の玄関口である米子駅を起点に、公共交通を生かした「歩いて楽しいまちづくり」への大きな一歩を踏み出しました。

歩くと交流が生まれる まちの魅力に気づく

中心市街地のにぎわいづくり

中心市街地でも、かつての活気を取り戻すため、商店の方々が中心となって、さまざまな取り組みが進んでいます。

元町通り、法勝寺町両商店街では「土曜夜市」が開催され、多くの人でにぎわいました。土曜夜市は1951年に全国に先駆けて始まり、半世紀に渡って商都・米子を象徴する催しとして親しまれてきました。一度は開催が途絶えたものの、商店街を盛り上げようと店主たちが立ち上がり、4年前に復活を遂げました。

土曜夜市の亀井智子実行委員長は「商店街はもともと人が歩くために作られた場所。車が入れない特性を生かして、通り過ぎる場所ではなく、目的地となる場所にしたい」と、今後の意気込みを語ります。今年はコロナによる制限が撤廃された中での開催で、出店もステージ出演も復活以降最多となりました。当日はステージの前に人だかりができるほどの盛況で、多くの人が露店での買い物や食べ歩きを楽しみました。

皆生温泉の新たな魅力に触れる

皆生温泉エリアでも、歩いて楽しいまちづくりが進んでいます。まちづくりは、米子市観光センターから海岸に続く四条通りと、海岸沿いの遊歩道を結ぶ「皆生温泉Tライン」の整備やにぎわいづくりを中心に進めています。

取り組みの一つとして、エリア内のあまり使われていない土地を活用し、人が滞在したくなる空間づくりや店舗出店の実証実験をする「水一広場（スイッチひろば）」や「ぐるぐるかいけ」が実施されています。これにより、観光客だけでなく、たくさんの地元住民が皆生に訪れ、改めて温泉街の魅力に触れるきっかけとなっています。

また、今年の春には海岸沿いの遊歩道の街灯のリニューアル（まちの灯り整備事業）が一部区間で完成しました。「海に開く」というコンセプトのもと、暖色のLEDで整備された街灯は遊歩道と砂浜を照らします。今後も民間事業者を主体とした持続可能なまちづくりを後押ししていきます。

ぐるぐるかいけ（写真提供：@miyaphoto1102）

まちの灯り整備事業

歩いて楽しい まちづくり宣言

米子市では、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へ生まれ変わらせることを目指しています。これからの未来のため、車への過度な依存から脱却し、車がなくてもまちなかや郊外で生活できる誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていきます。
ここ米子に集う人々が「歩いて楽しい」を実感できる街の実現のため、市民、企業、行政が連携した「歩いて楽しいまちづくり」に取り組むことを宣言します。

令和５年７月22日
伊木隆司

いつまでも楽しく歩いて暮らす

7月22日に米子市が開催した「歩いて楽しいまちづくりシンポジウム」では、歩いて楽しいまちづくりに官民が連携して取り組むことを市長が宣言しました。今後市内では「がいなロード」開通を契機に、米子駅・角盤町周辺地区の歩行者優先の空間整備や米子港周辺の広場整備、皆生温泉地区での灯りの整備、米子城跡の整備、東山公園の新体育館整備など、「歩いて楽しいまち」の実現に向けた鍵となる拠点の整備を進めます。そして、これらの拠点をつなぐ公共交通の利便性向上や、まちなかでのイベント開催、郊外の駅周辺の土地利用規制の緩和も同時に進めていきます。

加えて、市民の皆さんがいつまでも、まちを歩いて元気に暮らせるように、フレイル対策にも力を注いでいます。また、福米西公民館では「足腰を鍛え、認知症も予防する」をテーマにした管内のウォーキングイベントが始まりました。まちなみを眺めて地区の歴史に触れたり、参加者同士の交流を楽しんだりしながら歩いています。米子市では、こうしたウォーキングイベントの開催も推進していきます。

歩くと人と人との交流が生まれ、ゆっくりと風景を眺めることでまちの魅力の再発見にもつながります。車に過度に依存しない、誰もが暮らしやすいまちに向け、米子市は歩みを進めていきます。

福米西公民館のウォーキングイベントの様子